

平成28年度全国学力・学習状況調査を踏まえた 分析と改善方策について

印南町立清流中学校

1 調査の概要

(1) 調査日 平成28年4月19日(火)

(2) 調査の目的

◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。

◇児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

◇教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(3) 調査内容

調査の対象 中学校第3学年 8名

教科に関する調査 国語、数学

主として知識に関する問題(A)

主として活用に関する問題(B)

生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

生徒質問紙調査 ----- 学習意欲、学習方法、学習環境、
生活の諸側面等

学校質問紙調査 ----- 指導方法に関する取組や人的・物的な
教育条件の整備の状況等

2 教科に関する調査結果の概要

国 語

- 資料を読み取ることはできるが、さらに別の資料と比較し答えを導き出すという活用問題に課題がある。
- 図書館の活用・書写の内容に関する問題など、経験の少なさが正答率に影響しているところもある。国語の分野に関わる幅広い内容の学習が必要である。

(1) 国語A (知識)

(1) 国語A (知識)

- ◇全33問中15問の正答率が100%である。半数近くの問題に全員が正答できている。
- ◇また、文脈をよく読み、展開にふさわしい言葉を文中や文末に当てはめる問題が、全国と比べて正答率が高い。 [A6]ニ 87.5%
- ◇資料の活用の留意点を問う問題の正答率は比較的高い。 [A8]ニ 87.5%
- ◆漢字が持つ意味を答える問題において「優美」の意味は理解できていたが、「賛美」の意味は多くの生徒が理解できていなかった。 [A9]四ア 37.5%
- ◆文法において、「指示語」の意味を誤って解釈した誤答が目立った。文法の専門用語についての復習が必要である。 [A9]五 7.5%
- ◆書写の分野における縦長の紙に書かれた筆文字のレイアウトを訂正する問題が最も正答率の低いものであった。書写の学習経験が少ないという点が要因に挙げられる。書写の分野も幅広く知識を身に付けさせたい。 [A9]六 25.0%

(2) 国語B (活用)

- ◇一つの資料から、必要な情報を読み取る問題には、全員が正答している。 [B1]ニ [3]一 100%
- ◇説明文の構成を捉える問題の正答率が、全国平均を大きく上回る。 [B2]一 87.5%
- ◆調べたい情報の本を図書館で探すときの方法の問題で全国平均を10%以上も下回った。図書館の活用経験の少なさが課題である。 [B2]三 37.5%
- ◆文章を読み、さらに別の資料と照らし合わせて解答を導き出す問題の正答率が全国、県平均よりも若干低い。2種類以上の資料を読み取り、比較し、答えを導き出すことに課題がある。 [B3]ニ 62.5%

学習指導要領の領域等	国語 (A)	国語 (B)
話すこと・聞くこと	89.6	—
書くこと	81.3	58.3
読むこと	95.8	76.4
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	77.9	—

全国平均に比べて5ポイント以上 上回る (青字) 下回る (赤字)

数 学

- 基本的な計算、技能に関する問題は正答率が高い。図形での用語や知識を問う問題に関しても正答率が高い。
- 問題自体は理解し解くことができているが、理由や根拠を説明をする問題では誤答や説明不足な場面が見られる。思考力を問う問題に課題がある。

(1) 数学A (知識)

- ◇ 図形での知識・理解等の問題については十分理解できている。
[A ㊦ (2) 100%]
- ◇ 技能問題については、正答率が非常に高い。
[A ㊧ (3), ㊨ (2), (3), ㊩ (1), (4), ㊪ (2), ㊫ (3) 100%]
- ◆ 反比例を表した事象を選ぶ問題は正答率が低い。
[A ㊬ (3) 37.5%]
- ◆ 日常的に使う言葉から不等号を使って範囲を表す問題は、正答率が低い。
[A ㊭ (2) 12.5%]

(2) 数学B (活用)

- ◇ 与えられた情報から適切に処理をし具体的な数を求める問題については、全員が求められている。
[B ㊮ (1), ㊯ (1), ㊰ (1) 100%]
- ◆ 文字を用いて、正しいことの理由を説明する問題に対して、厳密に説明できていない解答例が多く見られる。
[B ㊱ (3) 37.5%]
- ◆ 選択問題はできているが、正しいことの根拠を説明する問題には無解答が多く見られる。
[B ㊲ (2) 12.5%]
- ◆ 相対度数の意味やそれを求める式を理解できていない。
[B ㊳ (2) 37.5%]
- ◆ 全般的に文章問題においては、その内容をしっかり理解できていない傾向がある。

学習指導要領の領域等	平均正答率 (%)	
	数学 (A)	数学 (B)
数と式	80.2	56.3
図形	82.3	50.0
関数	64.1	52.5
資料の活用	59.4	43.8

全国平均に比べて5ポイント以上 上回る (青字) 下回る (赤字)

3 質問紙調査の結果の概要

(1) 勉強が「好き」「どちらかといえば、好き」と思う生徒の割合は、国語は全国や県よりも大きい、数学は全国や県より小さい。

	国語	数学
学校	62.5	50.0
県	52.3	53.9
全国	59.8	56.0

(2) 授業の内容が「よくわかる」「どちらかといえば、よくわかる」と思う生徒の割合は、国語・数学ともに全国や県を下回っている。

	国語	数学
学校	50.0	62.5
県	72.7	69.8
全国	74.1	69.4

(3) 授業時間以外に全く勉強しない生徒の割合は、平日では全国・県に比べ小さく皆無である。しかし、休日に全く勉強をしない生徒の割合は、全国や県に比べて大きい。一方、平日1時間以上勉強をしている割合は、学校75.0、県66.3、国67.9であることから、全国や県より1時間以上勉強している割合が大きい。

	平日	休日
学校	0	25.0
県	6.7	18.1
全国	5.5	11.0

(4) 国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを「工夫している」「どちらかといえば、工夫している」と答えた生徒の割合は、全国や県より大きい。

学校	62.5
県	47.4
全国	56.7

(5) 「家の人と学校での出来事について話をしますか」について、「している」と答えた生徒の割合は全国や県を上回っている。

学校	50.0
県	43.3
全国	44.2

(6) 今住んでいる地域の行事に「参加している」「どちらかといえば参加している」と答えた生徒の割合は、全国や県を大きく上回っており地域と関わっていこうとする意識が高い。

学校	87.5
県	39.3
全国	45.2

(7) 「自分には、よいところがあると思いますか」について、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた生徒の割合は、全国や県を大きく上回っている。

学校	87.5
県	67.2
全国	69.3

(8) 「読書は好きですか」について、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた生徒の割合は、全国や県を大きく下回っている。

学校	50.0
県	63.2
全国	69.9

(9) 「学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことはありますか」について、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた生徒の割合は全国や県を上回り、大多数の生徒が達成感や成就感を感じている。

学校	87.5
県	78.3
全国	84.2

(10) 「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」について、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた生徒の割合は、全国や県を大きく上回っている。

学校	100
県	73.8
全国	78.0

4 調査結果を踏まえた改善方策

(国語)

- ・ 文法の学習について、定期的に復習を行い定着させていく必要がある。
- ・ 日々出会う漢字熟語について、その成り立ちや、語の意味について意識して調べるよう指導する。
- ・ 基礎的な資料の読み取りは習熟しているので、複数の資料をもとに気づいたことや答えを見つけ、それを説明する機会を増やす。
- ・ 文章の読解だけでなく、いろいろな資料から必要な情報を読み取り、根拠を明確にして自分の考えを書く問題等様々なタイプの問題に取り組ませていきたい。

(数学)

- ・ 記述式問題に関しては、難しいという先入観を持つ生徒が多いため、普段の授業時に説明文や計算式だけでなく、詳しい説明も加えながら書く習慣をつけさせることで抵抗感をなくしていく。さらに説明する能力をつけるために講義式の授業だけでなく、グループ学習などを取り入れ、他の生徒に説明する機会を増やすよう努める。
- ・ 用語に関しては、ただ覚えるだけではなく、意味や理由を理解できるようにしていく必要がある。そのために新しい用語が出てきた時には、数学的な意味をノートに書かせ理解させるようにする。
- ・ 理由や根拠を問う問題の正答率が低かったため、授業では、「なぜ？」という発問から、一人ひとり理由や根拠をノートに書かせ、それを全体で共有し、より良い表現に推敲していく学習スタイルも取り入れていく。
- ・ 領域別では、「資料の活用」の正答率が低く、1年時の学習内容でもあり時間の経過とともに知識・技能が曖昧になってきたことが一因ではないかと考える。今後、「資料の活用」で学んだ知識・技能を数学だけでなく総合的な学習の時間等、さまざまな教科・領域で活用する機会を増やしていきたい。

(質問紙)

- ・ 国語が好きと回答した割合が全国や県と比べ大きく上回っている反面、数学が好きと回答した割合が下回っているため数学的な活動や指導方法の工夫を多く取り入れるなど主体的な学びを増やし改善していく。
- ・ 国語、数学とも授業が「わかる」と回答した生徒の割合が、県、全国より低いのは現状としてすべての生徒が基礎基本が定着しているため、活用問題を授業の多くの場面で取り扱っていることに一因があるのではないかと分析している。活用問題を取り扱う場合には生徒の反応、理解度をよく見ながら授業を進めていく必要がある。

- ・家庭での学習や予習など、自立的な学習態度が身につけている状況が見られるが、2時間以上家庭学習する生徒の割合が県、全国よりも低い。今後さらに課題の内容、量、提示の仕方等工夫するとともに、家庭学習の手引きを活用し学習意欲の高揚を図り生徒それぞれが家庭学習の時間を増やすよう取り組んでいく。
- ・自分の思いや意見を工夫を凝らしつつ自信をもって表現することができる生徒の割合が県、全国より高い。今後もペア学習やグループ学習、発表会等意見を交流する機会を増やし、成功体験を積み重ねることで自己発言能力の育成に取り組んでいく。
- ・読書を好きという割合が全国や県に比べて低く、図書館の利用の奨励、生徒会図書委員会やブックトーク等の取組について工夫するとともに、校報や学級通信で呼びかける等読書活動の充実に向けて取組を進めていく。
- ・各教科の授業では言語学習の充実に取り組んでおり、和歌山の授業づくり基礎・基本3か条の徹底を図っているが、「振り返り」に課題が見られたので確実な実施に向けて全教員意識して取り組んでいく。
- ・総合的な学習の時間でふるさと学習に取り組んでおり、県や全国よりも地域と関わりを持つ意識する生徒の割合が非常に高い。今後もふるさと学習の充実に向け、地域に学ぶ取組を継続していく。
- ・学級活動や各行事等により達成感や成就感を感じる生徒の割合が全国や県を大きく上回り、今後も一人ひとりが活躍できる場をより多く提供し、自己有用感を高めていく。
- ・「先生は、間違いや理解できていないところについて分かるまで教えてくれるか」という質問に対し、肯定的な回答の割合（「そう思う」、「どちらかといえば当てはまる」）が県や全国に対し大きく上回っているのは、本校の研究主題でもある特別支援教育の視点を取り入れた授業づくりの成果が見られる。
- ・「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」という質問に対し、全ての生徒が肯定的な回答（「そう思う」、「どちらかといえば当てはまる」）をしており、さまざまな教育活動を通し今後も生徒と良好な信頼関係を築いていく。

※一部を取り出したの2次利用、また再配布を禁ず。 印南町教育委員会